

ICT を活用した英語授業の実践

～ 英語授業への興味付け、授業で何を行うのかの模索～

遠隔授業配信センター 主幹教諭 上田 妙

1 はじめに

ICTは学びのための道具であり、その活用により、学習を効果的に行うことができる。現在多くの生徒たちは、様々なICT機器の使用により、意欲さえあれば授業外でも多くの英語に触れ、自ら発音を学ぶことができるという学習者として恵まれた環境にある。私自身は機器に弱く、わずかな試みではあるが、今年度実施した授業におけるICTの活用について報告する。

2 実践の内容・方法

(1) Kahoot !

Kahoot! は学校等で使われる、ゲーム形式の学習システム。ユーザーが自分で作成することができる選択問題形式のゲームで、ウェブブラウザやアプリ上でプレイするものである。生徒がタブレットやスマホでサイトに入り暗証番号を入れると教員が作成した問題に解答することができ、解答結果や順位もその場で共有することができる。リスニングや、リーディング後の内容確認に定期的に使用した。フリー素材のみを使用したため作成する選択問題等には制限があったが、費用をかけると並べ替え問題等さらに様々な問題作成ができるようになっている。



(2) 文法ビデオ動画の作成（予習、反転授業ねらい）

授業内では活動やコミュニケーションを重視したいと考え、文法説明に多くの時間を割きたくない思いがあった。そこで、授業で教科書にある各文法のセクションについての動画を作成し、その動画を見た後で生徒に問題を解いてくることを予習として行えば、かなりの授業時間の節約になり、反転授業のような展開にできるのではないかと考え、実践した。レッスンごとに作成した文法解説動画を Google Classroom に投稿し、期限までに視聴し教科書の問題を解くように指示した。

(3) Google Forms を利用した文法確認問題と生徒による問題作成

Forms を利用し、授業のみでは定着しない文法問題を教員が逐次出し、生徒の提出にフィードバックするようにした。また生徒自身が問題を作成し、互いに問題を出し合うことも試みた。

(4) 音声ファイルによる音読評価

現在の遠隔教育システムでは生徒の音読の細かいところできているのかが教員に伝わりにくく、授業内で音読テストを行うのが困難である。そこで、授業で音読練習した英文を生徒がさらに家庭でも音声を聞きながら練習し、できるようになったら生徒自ら録音し、最も上手に読めた音声ファイルを Google Classroom に投稿するという形で音読テストを行った。

(5) 動画撮影によるパフォーマンス評価

英語表現 I の Lesson5 では「レストランで注文することができる」ことを目標とした。そこで、授業で練習した後、放課後等生徒4人の都合のよい時間にロールプレイを録画して、Google Classroom に投稿する形でパフォーマンス評価を行った。前もってこちらからは生徒に対し、使用するメニュー、役割分担表、パフォーマンス評価のルーブリックなどを提示しておいた。同様に、コミュニケーション英語 I では学校を紹介するビデオを作成し、評価した。



(6) YouTube warm-up

これまでも動画を授業で使用したことはあったが、8月にオンラインで参加した『英語授業改革セミナー「本気で授業改革！」(明海大学・朝日大学主催)』の中で、講師から生徒の学習意欲を高

めるための Warm-up 等で使える動画を紹介され、内容の良いものが多くあることに改めて気付いた。また、授業に関連した動画なども検索し、適宜授業に生かすようにした。生徒になじみのない単語等はワークシートで事前に指導し、視聴した動画の概要や要点について生徒に問うこととした。

3 実践の成果

(1) Kahoot !

ゲーム性があり、集中して選択肢を読むので生徒たちも熱心に取り組んでいた。選択肢の英語は入試問題等も意識しパラフレーズして作成するようにした。問題点は、選択肢が複雑になると文字が小さくなり読みにくいことである。順位付けにより正答率が低い生徒は学習意欲が低下することもあるかと思っていたが、アンケートでは全生徒が「役に立った」、「面白かった」、「学習へのモチベーションが上がった」と回答した。

(2) 文法ビデオ動画の作成（予習、反転授業ねらい）

教科書の難易度が高く、説明を細かくしたものの、やはり一方的な授業動画では生徒の理解度を確認しながら進めることができないため、生徒にとっては難しく、視聴後に問題を解くことができるといふことには至らなかった。生徒がある程度自立した学習者であれば、授業時間をコミュニケーションやスキルの向上に多く割り当てるために、予習としての文法動画の使用は有効であると思う。復習として1学年上の生徒にも視聴させたが、こちらの方が好評であった。

(3) Google Forms を利用した文法確認問題と生徒による問題作成

反復学習としては一定の効果があり、生徒からも好評であった。生徒による作問には課題があり、今年度は教員が作成することが主であったが、学び合い、作問することによってより深い理解が得られると思うので、来年度以降はさらに生徒相互の学びができるよう工夫していきたい。

(4) 音声ファイルによる音読評価

生徒が空いた時間に何度も読んで録音し、良かったものを教員に送るというシステムである。生徒もプレッシャーがなく実施でき、音読テストの時間を取る必要もなく、ALT とじっくり評価できるので、良いと感じた。普段の授業よりも音声もクリアで細かいところも聞き取れた。生徒も提出まで何度も練習を重ねることができた。

(5) 動画撮影によるパフォーマンス評価

生徒は工夫して撮影しており、生徒がより創造的にパフォーマンスできると感じた。評価についても繰り返して動画を見ることができ、評価及びフィードバックがしやすかった。

(6) YouTube warm-up

実際のネット上にある動画はすべて良いものであるとは限らないが、オーセンティックな素材を扱うことにより生徒の英語学習への動機付けとなり得ると感じた。英語学習に意欲のある生徒は、聞けるようになるまで何度も繰り返し視聴するし、字幕等を利用して何が話されているのか確認する。英語は日常ごとにならないと習得できないので、今後も効果的に行っていききたい。今年度を振り返ると、3年生ではある程度できていたが、2年生は、背景知識も少なく聞き取りが難しかった。素材をもっと吟味する必要がある。

4 課題及び今後の取組

Google Workspace を試行錯誤しながら積極的に使用していく必要があると感じた。生徒のパフォーマンス動画や音声の送信等を通して英語授業やテストをより効率的に行うことができるという実感を得ることができた。今後、生徒同士の学びの向上にも利用できるようにしていきたい。

計画時に最も行いたかった実践は ICT を通じた多読の取組であるが、M-reader(英語多読プログラムのサイト。Web サイト上でクイズができる)等の使用は組織的な取組が必要とされているため、許可されなかった。高知県の県立高等学校は英語の単位数が少ない学校が多く、英語力向上のためには授業外で英語に触れる時間を増やすことが不可欠なので、環境が整ったところで挑戦したい。